

2019/9/7(土)13:50-16:50 (受付開始 13:00)

## やってみませんか！大学との共同研究～臨床現場は研究テーマの宝庫～

### 講座情報

#### 「1. 臨床研究の進め方と具体的事例」

##### 望月 眞弓

臨床現場は研究材料の宝庫です。クリニカルクエスチョンをリサーチクエスチョンへとし、研究を実施して、成果を臨床にフィードバックすることは大変重要なことです。この講演では臨床現場からのエビデンス創出のための方法論と大学との連携についてお話しいたします。

##### 《学習到達目標》

- 研究は薬剤師の重要な機能であることを説明できる
- Clinical Question から Research Question を作ることが出来る
- 研究計画の立案の基本を説明できる
- 研究倫理の重要性を説明できる

#### 「2. 同意説明と同意取得のプロセス」

##### 種村 菜奈枝、富永 佳子

臨床現場で患者さんを被験者として研究を実施するにあたり、同意取得のプロセスは大事なステップです。しかし一方で、被験者のリクルートと同意の取得が大きなハードルになっているという声も多く聞かれます。この講座は、患者さんの視点に立った同意説明や同意取得のポイント解説、同意説明文書作成の演習を通して、明日からの臨床研究の実践に役立てて頂くことを目的に企画いたしました。

##### 《学習到達目標》

- 同意説明と同意取得のプロセスを説明できる
- 同意説明における留意点を説明できる

### 講演者情報

#### 「1. 臨床研究の進め方と具体的事例」

##### 望月 眞弓

慶應義塾大学 名誉教授／特任教授

##### プロフィール

千葉大学薬学部卒業。同年日本ロシユ株式会社(学術部, 試薬部)入社。その後、北里大学病院薬剤部、千葉大学大学院薬学研究科助教授、北里大学薬学部教授を経て、2007年共立薬科大学医薬品情報学講座教授、2008年より慶應義塾大学薬学部医薬品情報学講座教授に就任。2013年慶應義塾大学薬学部長、薬学研究科委員長。2015年から慶應義塾大学薬学部病院薬学講座教授、病院薬剤部長を兼任、2019年3月定年退職、2019年4月より慶應義塾大学名誉教授・病院薬学講座特任教授。

主な所属学会は、日本医薬品情報学会、日本医療薬学会、日本薬剤疫学会、日本薬学会の各学会で理事を務める。日本学術会議会員薬学委員長。

## 「2. 同意説明と同意取得のプロセス」

### 種村 菜奈枝

慶應義塾大学薬学部医薬品開発規制科学講座 助教

#### プロフィール

主な経歴

2006年 3月 大阪大学 医学部 保健学科卒業

2006年 4月 資生堂

2008年 2月 京都大学 医学部附属病院探索医療センター検証部

2009年 4月 千葉大学 医学部附属病院臨床試験部

2016年 3月 千葉大学 医学薬学府先端医学薬学専攻(医学領域)修了, 医学博士

2016年 8月 慶應義塾大学 薬学部医薬品開発規制科学講座 助教

現在に至る

専門分野は、医薬品開発及びレギュラトリーサイエンス。

主な受賞歴は、2004年 8月 大阪大学 課外研究奨励賞(総長賞)、2019年 3月 慶應義塾大学薬学部長賞。

### 富永 佳子

新潟薬科大学健康推進連携センター 教授

#### プロフィール

1986年 徳島大学薬学部卒業、2001年 米国ジョージタウン大学経営大学院修了(MBA)、2018年 慶應義塾大学大学院薬学研究科後期博士課程修了(PhD)。大学卒業以来長らく、製薬企業などにおいて臨床開発モニターおよび開発プロジェクトリーダーとして新薬開発に従事し、開発戦略や製品戦略の策定にも関わってきた。画期的な新薬が生まれても、患者の服薬アドヒアランスが不十分だと期待する成果が得られないことに課題意識を持ち、研究者として歩むことを決めた。薬剤師の職能発揮、他職種との連携、患者とのコミュニケーションなど社会薬学領域を中心に、質問紙調査の量的分析、インタビュー調査の質的分析、認知科学的視点を取り入れた薬剤師の介入試験など、様々な手法の研究に取り組んでいる。2018年より勤務する新潟薬科大学は「健康・自立社会の実現を目指し『ひと』と『地域』に貢献する」というミッションを掲げており、行政とも協働し、地域住民に対する教育・啓発のための試みも進めているところである。